# 平成３１年度（令和元年度） 学校評価書（山形中央高等学校マネジメントシート）

1　教育方針

（1）　教育目標

一、知性を愛し、自ら学ぶ喜びに燃えよう　　一、視野を広め、豊かな自己の創造に努めよう　　一、心身を鍛え、たくましい覇気と行動に徹しよう

（2）　校訓　　友愛、自由、平等、団結

働き蜂　勤労
羽　根　勉学
胴　体　高等学校
山　型　友愛、自由、平等、団結

2　学校経営

（1）　目指す学校像　知徳体の調和がとれた『地域の未来をひらく人材』を育成する学校

（2）　育成する生徒像　①　自ら学ぶ生徒　　②　人間性豊かな生徒　　③　心身を磨く逞しい生徒

（3）　ありたい教職員像　子どもたちへの愛情にあふれ、豊かな人間性を備えた教職員
同僚性を育み、自らの専門性を高める教職員
前向きでチャレンジ精神にあふれた教職員

★　評価はABCの3段階
A:良い　　B:概ね達成　　C:改善が必要

3　学校自己評価

| | 観点 | 重点目標 | | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 中間総括 | | 年度総括 | | ○ 達成されたこと<br>▼ 改善を要すること | 総合 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 指標の結果 | 評価 | 指標の結果 | 評価 | | |
| 自ら学ぶ生徒　その１ | 指導力向上 | 教務部 | 生徒の実態を把握し、教材研究力を向上させ、授業を改善する | ①生徒の授業アンケートを2回行う。<br>②探究型授業や主体的学習の研究を進め、授業改善を進める。 | アンケートの肯定的な回答の向上<br>各教科から授業研究の計画、実施報告書の提出を求める。 | 7月アンケート<br>平均１の段階<br>ねらい項目36/48学び合い項目33/53 | B | 授業アンケートは2回目も大きな変動はない。<br>各教科で授業研究を進めた。 | B | ○授業研究は、各教科で実施した。今後は新カリに向けて、編成、シラバス、評価の研究を進める。 | B |
| | | 教務部 | 教科毎に、ICT活用等の研究を進める（効果的な指導法の共有） | 教科毎にICTや補助教材の有効な活用を図る。 | 生徒の授業評価で肯定的な回答が80%以上 | 7月アンケート<br>40/52教科達成 | B | 授業アンケートでの回答は、大きな変動は見られない。 | B | ○８割の教科で80%を超えている。▼未達成の教科の有効な手立てをお願いします。 | |
| | | 学セン部 | 様々な学習場面において、思考力・判断力・表現力を効果的に育むために、ICTの活用を推進する | 学習センター部の管理するICT機器を適切に配置し、活用しやすい環境つくりを行う | ICTを活用した授業数の増加（教員対象アンケートによる） | 今後実施予定 | C | 1学年、2学年ともに1学期の結果と比較して評価段階の平均値に上昇がみられた。 | B | ○探究活動を通して、思考力、基礎力、実践力のいずれの分野でも自信を深めたことが平均値の上昇から確認できた。 | |
| | 学力向上 | 進路部 | 希望進路を達成するための確かな学力を身に付けさせる | 平日講習及び長期休業中の講習・セミナーを実施して、進路目標が達成できる学力の確立を図る | 模擬試験の成績：各学年設定の目標偏差値以上<br>国公立大合格者数：難関大2名以上、国公立大60名以上<br>普通科センター受験率，５教科受験率：95%以上 | センター出願率<br>96．8% | | センター受験率96．8%<br>５教科受験率98．7% | B | ○センター試験については高い受験率を達成できた<br>▼上位層のさらなる伸長 | C |
| | | ［1年］ | 高校の基礎学力を身につけさせる | ①考査前学習会や長期休業中時に講習を実施する<br>②スタサポや模試の結果分析による教科指導の検討 | １月進研模試でss55以上が60名以上 | ７月進研<br>ss55<br>47名 | C | 11月進研<br>ss55<br>43名 | C | ▼学びに向かう姿勢を、教科と進路の両輪で高めていく必要がある。 | |
| | | ［2年］ | 進路目標を明確にしながら、学力を向上させる | 模試分析をふまえた教科指導を充実させる | ２月マーク総合の偏差値がss52以上 | 7月記述偏差値５０．３ | C | 11月記述偏差値<br>５１．１（文系）、４８．６（理系） | C | ▼基礎学力の向上と、明確な進路目標の設定 | |
| | | ［3年］ | 進路目標達成に向けて学力を向上させる | 放課後学習会、平日・土曜講習、夏冬期講習、二次対策講習を通し志望校合格に向けた学力を付けさせる | センター受験率100%をめざす<br>国公立大合格者数80名 | 7月記述偏差値5-8<br>文系49．4，5-7理系45．6 | C | センター受験率96．8% | C | 土曜学習会は開催できない状況 | |
| | 学習意欲 | 教務部 | 考査に向かう姿勢をより主体的なものにし、結果を意識させる | ①考査に向けての学習計画を立てさせる<br>②考査の目標点、目標評価を設定させる | 自己評価をさせ、生徒による学校評価アンケートで、「達成できた」と6割以上の生徒が答えている | 未実施 | | 目標点数や評価は設定するが、そのための計画を立てて実行する生徒は低学年ほど少ない。 | C | ○目標点数や目標評価を設定する生徒は６割以上。<br>▼目標達成のために何をすべきかについて、具体的な計画の立て方も含めた指導が必要。 | B |
| | | 学セン部 | 総合的な探究（学習）の時間における探究型学習を通して、探究心及び発信力を育成する | 自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決するための資質や能力を育てる学習活動を展開する | ①自らが見付けた課題を探究し、発表することができる<br>②ルーブリックによる評価段階の上昇 | 1学期分のルーブリックによる自己評価は実施済み。 | C | 1学年、2学年ともに1学期の結果と比較して評価段階の平均値に上昇がみられた。 | B | ○探究活動を通して、思考力、基礎力、実践力のいずれの分野でも自信を深めたことが平均値の上昇から確認できた。 | |
| | | ［1年］ | 総合的な学習の時間における探究型学習を通して探求心及び発信力を育成する | 協働する方法やデザイン思考を学びながら、コミュニケーション能力を養う | ①自らが見付けた課題を探究し、発表することができる<br>②アンケートの満足度の増加 | 未実施 | | ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ自己評価0．43上昇 | B | ○学セン部の運営は大変だったと思うが、1年次に全員発表できたことは有意義であった。 | |
| | | ［2年］ | 探究求型学習への主体的な取り組みにより問題発見力と発信力を育む | ①主体的・積極的活動ができるグループづくりを行う<br>②グループによる発表とそれをもとにした自己評価を充実させる | ①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上<br>②ルーブリック自己評価が向上した者が80%以上 | 未実施 | B | ①アンケートで肯定的回答８９%<br>②自己評価が向上した者１００% | B | | |
| | 習慣づくり学習課題 | 教務部 | 家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる | 授業がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる | 生徒の授業評価、学校評価アンケートで「習慣がついた」回答が増えたか。 | 未実施 | | 普通科については、各学年とも６割以上肯定している。 | B | | B |
| | | 生徒部 | スマートフォンを便利なツールとして有効に正しく活用できる力を身につけさせる | ①学習時間調査に「スマホ使用時間」の調査項目を追加してもらい、実態を把握する。<br>②生徒会・学級委員・自治委員を中心に、生徒が主体的に正しい利用につながる取組みを推進できるよう支援する。 | 年度末にスマホ使用時間対年度始比10%削減。 | 未実施 | C | 10%減の達成率<br>50．4% | C | 保健部アンケート項目の「掲示物やアンケートがスマホ利用を見直すきっかけとなったか」には72．8%が「改善できている」と回答しており、次年度も保健部と連携した取組を継続することにより改善が期待できる。 | |
| | | ［1年］ | 家庭での学習習慣を確立させ、授業の内容をより定着させる | 授業がより効果的に身につくよう、与える課題を工夫し、家庭学習を充実させる | 課題提出率100% | | B | | C | 問題を抱える生徒以外はしっかり指導していく必要がある。 | C |
| | | ［2年］ | 学習内容の一層の定着のために家庭学習の習慣化に取り組む | 質・量を精査した課題を提示する | 週末課題提出率100% | ７０%程度 | C | ７０%程度 | C | ▼さらなる学習習慣の確立が必要 | |
| | | ［3年］ | 家庭での学習習慣を確立させ、主体的に学びに向かう生徒を育成する | ①各科目で週末に取り組む課題を与える<br>②課題の内容と量を精査・調整する | 知識や学習内容の定着度80%以上 | ５０%程度 | C | 毎日習慣的に学習<br>AB68．9% | C | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 自ら学ぶ生徒　その２ | 学習環境 | 学セン部 | 魅力ある図書館資料を収集、整理し、生徒が読書に親しむ機会を積極的に提供する | 分掌、教科、学年との連携を密にして、生徒の興味・関心を考慮した図書館資料の充実を図る | 学習センターを活用した生徒の満足度調査（生徒対象アンケートによる） | 今後実施予定 | C | 1月中旬に1～3年のそれぞれ一クラスを抽出し、アンケート調査を行った。 | B | ○ほとんどの項目で9割前後のの肯定的な回答を得たことから、学習センターへの満足度は高いと考えられる。（結果は公開済） | B |
| | | ［1年］ | 生徒が本や新聞を読む機会を提供するとともに、様々な学習場面においてICTの活用を推進する | ①朝学習の時間を活用し、新聞記事を通して様々な話題に興味関心を持たせる<br>②授業・LHRの時間にICT機器を活用し、生徒の理解を高める | ①生徒への図書の平均貸出冊数を4冊以上に維持。<br>②アンケートの肯定的回答の増加。 | 4.46冊/人<br>9月現在 | A | 6.95冊/人 | B | ○多読者は固定してはいるが、褒めて活字に親しませたい | |
| | | ［2年］ | 読書を奨励し、思考力や表現力を育て、進路を意識させたうえで小論文指導に取り組む | ①朝学習・LHR等を通して集団読書を充実させる<br>②読書感想文の指導を行う | ①図書の平均貸出冊数4冊以上を維持<br>②読書感想文の提出率100% | ①平均貸出数１．１８冊<br>②読書感想文の提出率９９％ | B | ①平均貸出数１．８９冊<br>②読書感想文の提出率９９％ | C | ▼進路実現に結び付けて、読書の励行を呼び掛けていきたい。 | |
| | | ［3年］ | 思考力や表現力を磨くために生徒が積極的に新聞や本を読む機会を与える | ①学習センターを利用する<br>②本を読む機会を増やす | 貸し出し冊数一人4冊以上 | 一人1.2冊 | C | 1人2.84冊 | C | | |
| | | 総務部 | 生徒が安全に学校生活を行えるように学校の環境整備を行う | ①災害訓練(2回/年)を実施する<br>②施設安全点検を月に1回行い、校舎の危険箇所を早期に発見と備蓄品の点検を行う<br>③奨学金の申込みの指導を適切に進める | 学校評価(生徒版・保護者)で肯定的高評価合計が70%以上 | 未実施 | | 概ね達成できた | B | | B |
| | | 総務部 | 学校運営が円滑に進むようにする | 職員会議・式典を円滑に行う | 職員にアンケートを実施し、良かった点や改善点を職員で共通理解できたか。<br>また学校評価(教職員)で肯定的高評価合計が70%以上 | 未実施 | | 概ね達成できた | B | | |
| | | 保健部 | 環境の美化に貢献できる公共心を育む | ①丁寧な清掃活動<br>②生徒による清掃点検の実施 | 清掃点検のA評価が80%以上（前年度72．4%） | ７０%前後 | B | 最高７２% | B | ○2－5、3－1、3－6全てA評価▼黒板周りを丁寧に | |
| | | ［1年］ | 身の回りの環境に目を向けさせ、それを改善しようとする公共心を育てる | ①丁寧な清掃活動ができるようにする<br>②生徒による清掃点検の実施を支える | 清掃点検で、「清掃が徹底されている」のA評価が90%以上 | 5～9月点検<br>29%（A評価） | C | 38%（A評価） | C | ▼清掃の大切さを引き続き伝えていく | |
| | | ［2年］ | 公共心や協調性を育て、学習効果を高めるために環境美化を推進する | ①丁寧な清掃活動ができるようにする<br>②始業時に教室内整頓を指導する | 清掃点検で評価Aが90%以上 | 9月点検のＡ評価６３% | B | 9月点検のＡ評価６８% | C | ▼日々の清掃監督の際に呼びかけを行っていきたい | |
| | | ［3年］ | 自発的に環境美化に努め、愛校心を育む | ①丁寧な清掃活動ができるようにする<br>②私物の管理を徹底させる | 清掃状況を随時確認し、評価A90%以上 | | C | 80%程度 | C | | |
| | 目標設定 | 進路部 | 進路意識の高揚を図り、高い志を貫き通すことができるようにする | ①適切な時期及び内容の進路講演会や研修会を実施する<br>②「志望届」を2年で完成させ、生徒個々の志望を組織的に把握する | ①進路講演会後のアンケート調査で肯定的な回答が8割以上<br>②2年3月までに「志望届」を完成 | 未実施 | | 概ね達成 | B | | B |
| | | ［1年］ | 進路学習や研修会を通して進路意識を高める | ①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会・山形大学訪問を実施する<br>②大学等の外部の講座への参加を促進する | ①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上<br>②志望学部学科を具体的に回答した生徒が増加 | 山大訪問肯定的回答99% | B | 大学出張講座肯定的回答99% | B | ○進路意識向上に資する貴重な体験であり、進路部の準備に感謝したい。 | B |
| | | ［2年］ | 面談・家庭との連携・外部体験活動等あらゆる機会を捉えて進路の明確化を図る | ①学習ガイダンス・進路ガイダンス・進路研修会を実施する<br>②志望理由書を作成させる | ①アンケート調査での肯定的な回答が8割以上<br>②志望理由書模試の受験率100% | ①進路研修会肯定的回答８０%<br>②志望理由書模試１００% | B | ①進路研修会肯定的回答８０%<br>②志望理由書模試１００% | B | | |
| | | ［3年］ | 受験システム理解させ、進路希望を明確にし、高い志を維持できるよう努める | ①受験についての情報を保護者と共有する<br>②進路ガイダンス・研修会を開催する | 各講座・講演会等の事後アンケートにおける肯定的回答80%以上 | 未実施 | B | | B | | |
| 人間性豊かな生徒１ | 基本的生活 | 生徒部 | 生徒一人ひとりに規範意識を定着させることで、安心安全な学校環境つくりを推進する | ①交通事故0維持日数を掲示する<br>②いじめ案件に対し迅速かつ組織的な対応をとる<br>③頭髪服装検査を定期的に実施する<br>④自転車点検および登下校時の安全指導の充実を図る | 交通事故件数1桁。<br>特別指導事案発生件数前年度比50%減 | 交通事故5件<br>特別指導3件 | B | 交通事故7件<br>特別指導4件 | B | | B |
| | | 保健部 | 互いに多様性を認め合い、誰もが安心して学校生活を送れるように支援する | ①生徒および保護者が健康相談しやすい環境をつくる<br>②特別な支援を要する生徒へきめこまやかな対応をする | 健康相談件数を昨年度より増やし、早期の対応を諮る | 昨年度前期より増 | A | 昨年度より減少 | B | ▼連携を強化し、迅速に対応していく。 | |
| | | 保健部 | スマホによる健康被害について理解し、明るく健康な生活を送れるように支援する | 生徒保健委員会活動における昨年度からの研究を継続して支援する<br>①スマホの使用頻度と健康状態の関りについて、意識の向上と使用方法の改善を図る<br>②各家庭の協力も得られるような改善策を探る | 研究の過程で実施するアンケート調査の結果 | 保護者のアンケートに期待 | A | 事後アンケートの結果改善傾向がみられた。 | A | | |
| | | 体育部 | 自己管理ができる生徒を育成する。 | ①学校を休まないで登校する。<br>②文武両道を実践する。 | ①出席率99．2% | 99．1% | B | 99．10% | B | ▼問題行動によって出席率を下げている | |
| | | ［1年］ | 基本的生活態度を向上させる | ①生活リズム（三点固定）の大切さを何度も強調する<br>②集団生活における規律を徹底させる<br>③脱スマホに向けた啓発活動を行う | ①学習時間調査、アンケートにおける学習時間、睡眠時間の確保<br>②特別指導案件0<br>③違反によるスマホ預かり件数10件以内に抑える | 特別指導<br>1件 | C | スマホ預かり０数 | C | ▼スマホ依存の状況は、予断を許さない状況にある。 | |
| | | ［2年］ | 基本的生活習慣を身につけ、自律的行動ができる集団づくりを推進する | ①私物管理を啓蒙する<br>②時間管理を指導する | ①教室での盗難件数0件<br>②生活時間調査を年間4回以上実施する | ①盗難０件（10/4現在）<br>②生活時間調査はClassiで常時実施中 | B | ①盗難１件（1/10現在）<br>②生活時間調査はClassiで常時実施中 | B | | |
| | | ［3年］ | 基本的生活態度を身につけ、良識ある判断に基づいた行動がとれる生徒を育成する | ①始業・授業・移動などにおいて「場」を意識した行動を促す<br>②社会人としての在り方を意識させる<br>③生徒向け「SNSモラル研修会」を開催する。 | 朝学習開始時間厳守（8：30 | 一部時間が守られていない | C | 概ねできた | B | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人間性豊かな生徒２ | 集団づくり | 生徒部 | 生徒一人ひとりに多様な場を提供し、集団を率いる力・集団に貢献する力の育成を推進する | 生徒会各種委員会の自発的活動を支援する | 学校評価（生徒版）で6割以上が評価 | 未実施 | C | 72.0% | B | | B |
| | | ［1年］ | ボランティアデーや部活動　全校応援、あいさつ等の活動を通して他者を思いやる公共心を育成する | ①ボランティア活動への積極的参加<br>②各種競技の全校応援を通じて仲間を本気で応援できる志を高める<br>③日頃、人より先に挨拶し敬意を表す（教職員が率先垂範） | アンケート調査で肯定的回答が60%以上 | | B | | C | ▼全校応援時以外はなかなか支援できていない。 | |
| | | ［2年］ | 校内外の多様な活動への参加を推進し、広い視野と協調性を育む | ①身だしなみ検査を行う<br>②生徒会活動への積極的参加を促す | ①身だしなみ検査違反者数0名<br>②アンケート調査での肯定的回答が8割以上 | ①衣替え時の身だしなみ検査違反10名以上<br>②未実施 | C | ①衣替え時の身だしなみ検査違反10名以上<br>②学校評価ＡＢ：生徒６４% | C | ▼ＬＨＲなどを利用し、生徒会を主体とする活動などを行うことで生徒会活動への参加を促していきたい。 | |
| | | ［3年］ | 自律的な行動を促し、集団生活や社会的規範を意識した生活を送らせる | ①服装や携帯機器使用の確認<br>②他人を尊重しながら行事等で協力体制を築かせる | ①規則、マナーの遵守<br>②クラスマッチ、学校祭を通した個人、集団の成長を実感できた生徒が8割以上 | ①モラルの低下<br>②未実施 | C | ①認識の甘さ<br>②生徒Ｂ以上94.9% | B | ▼部活動を引退した体育科生徒の目標設定 | |
| | キャリア教育 | 進路部 | 協調性に富み、社会に貢献しようとする姿勢を育成する | 総合的な学習の時間を活用したキャリア教育を実践する | 総合的な学習の時間に関するアンケート調査で肯定的な回答が8割以上 | 未実施 | | 概ね達成 | B | | B |
| | | 体育部 | 体育の授業を通して、スポーツの振興発展に寄与する生徒を育成する | ①体育科キャリア教育を推進する<br>②進路検討会を行う<br>③担任・顧問による進路個別相談を実施する<br>④卒業論文を作成<br>⑤指導法を充実させる | ①②③進路希望調査で具体的な目標設定<br>②③第1志望の達成率100%<br>④卒業論文の質の高さ<br>⑤自己評価、他者評価 | | | 国公立6　私立大39<br>公務員6　私立短大2<br>看護医療専8<br>専門学校3<br>公務員６　民間9名自営業１　未定１ | B | ○体育科職員が協力して進路指導にあたれた。<br>○卒業論文の作成のみならず、プレゼンテーションの質を上げれたことで良かった。 | |
| | | ［1年］ | 社会と自分の関わり方を考えさせる | 各種適性検査や進路研修会を通してキャリア教育を実施する | 検査結果や進路行事のアンケート調査で、役に立ったという回答が8割以上 | 山大訪問役に立った98% | B | 大学出張講座役に立った99% | B | | |
| | | ［2年］ | 社会人としての資質を涵養する | 総合的な学習の時間等を活用したキャリア教育を実践する | アンケート調査での肯定的な回答が8割以上 | 未実施 | | アンケートで肯定的回答８０% | B | | |
| | | ［3年］ | 社会人としての意識高揚を図る | 面談、小論文、面接指導などにより広い視野と表現力を育成する | ①小論文模擬試験の評価Bの人数昨年度比増<br>②コラム（毎月曜の朝学習）完読率100% | ①はほとんどＣ<br>②は90%ぐらい | C | ①ｃ②2学期以降教科学習に切替 | B | | |
| | 社会貢献 | 生徒部 | 豊かな人間性や社会性を育むために、部活動単位でのボランティア活動を推進する | 各部にボランティア実施計画書・報告書を提出させ、具体的・実効的なボランティア活動の充実を図る。 | 学校評価（生徒版）で6割以上が評価 | 未実施 | C | 未実施 | C | ▼報告書を受けて次年度の改善策を検討する | C |
| | | 体育部 | 規範意識を持ち、協調性やおもいやりのある生徒を育成する | ①各部でボランティア計画を作成する<br>②体育科集会を適宜実施する | ①ボランティアの実施状況<br>②体育科集会の実施 | ①1部20名<br>②３件１０名 | C | ①各部とも工夫した取り組み<br>②特別指導数<br>4件１１名 | C | ○各部とも工夫を凝らしながらボランティア活動を行っている。<br>▼3年生の部活動引退後の生活指導がこれまで以上に行う。 | |
| | 地域連携<br>保護者連携 | 総務部 | 学校の魅力を校外へ発信できるようにする | ①HPを充実させ、学校の魅力を地域に発信する<br>②学校だより、PTAだより（年2回発行）を第六学区の回覧板に盛り込んでいただき、学校の様子が地域の幅広い年代層の方々にも伝わるようにする | 学校評議員及び保護者の学校評価で肯定的評価が70%以上 | 未実施 | C | ＨＰの更新回数が増加し、ＨＰを一回も見た人が減った。 | C | ▼ＨＰの内容の充実。特に学習面での情報発信 | B |
| | | 総務部 | 在学生への社会的支援と家庭との連携に寄与する | 奨学金制度を随時案内する | 奨学金制度案内についての保護者からの苦情が0 | 苦情はなかった | B | | B | | |
| | | 総務部 | PTA活動等を通して、保護者と連携を密にする | ①一声運動を実施し、学校の様子を保護者に見ていただき、あいさつの励行を行う<br>②PTA総会での出席率の調査を行う<br>③保護者による学校評価アンケートで調査する<br>④学校からの配布物を連絡メールで知らせる | ①一声運動参加80%以上（H29 79%）<br>②総会出席率60%以上（H29　50%）<br>③学校評価(保護者)で肯定的評価が70%以上<br>（活動参加は80%程度あり） | ①６８%<br>②ＰＴＡ総会出席率５２% | B | ①６８%<br>②ＰＴＡ総会出席率５２% | B | ○一声運動の参加は減ったが、東北高Ｐ連や地区高Ｐ連研修会への参加などＰＴＡ活動は活発であった。 | |
| | | ［1年］ | 学校と家庭の連携を図り、学習環境の整備や生徒理解を深める | ①学年便りを発行し、学校の様子を伝える<br>②HPへの掲載を充実させ、学年の魅力を発信する<br>③学校祭（一般公開日）への来校を声掛けする | ①PTA総会出席率　70%以上<br>②学校評価（生徒版、保護者版）AB　70%以上 | 総会62.2% | B | 入学してよかったか<br>AB94.2% | B | | B |
| | | ［2年］ | 学校・学年からの連絡等を迅速正確に伝え、諸行事への多数の参加を推進し、共通理解を持って生徒指導に取り組む | HPへの学年通信の掲載し、積極的に情報発信する | ①PTA総会・進路研修会出席率　70%以上<br>②学校評価（生徒版、保護者版）AB　70%以上 | ①ＰＴＡ総会４７%<br>進路研修会５８%<br>②未実施 | B | ①ＰＴＡ総会４７%,進路研修会５８%<br>②学校評価ＡＢ：生徒８５%、保護者７５% | B | | |
| | | ［3年］ | 学校と家庭の連携を図る | ①学年通信を発行する<br>②保護者を対象とした進路研修会を開催する。 | ①PTA総会出席率　60%<br>②学校評価（生徒版、保護者版）AB 70%以上 | | C | ①50.3%②AB保護者93.7%,生徒90.2% | B | | |
| | 学習時間 | 進路部 | 学習習慣の定着と学習時間の安定的な確保及び伸長を目指す | 学習時間調査を適宜実施・分析し、現状把握と適切な対処を行う | 学年＋1時間を目指す | | C | | C | | C |
| | | ［1年］ | 早期に学習習慣を確立させる | 学習時間調査による三点固定の意識付けを行う | 学習時間調査で平日の学習が2時間以上 | 123分<br>6月試験2W前 | B | 115分10月<br>三連休あり | C | ▼平日は90分程度と思われる。 | |
| | | ［2年］ | 家庭学習の定着と学習時間の伸長を目指す | 学習時間調査による分析をもとに適切なアドバイスを行う | 学習時間3時間以上 | 9/17～21期間：１３５分 | C | 12/9～13期間：９５分 | C | ▼テスト期間以外の学習時間が特に少なくなっている。 | |
| | | ［3年］ | 3学年として効果的な学習習慣を確立させる | 学習内容の記録（普通科ダイアリー）を通して進路達成に必要な学習習慣を指導する。 | 学習時間調査で普通科平日学習時間4時間以上 | 9/11～18期間：292分 | C | ダイアリーより | C | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 心身を磨く逞しい生徒 | 健康管理 | 保健部 | 主体的に自己の健康管理をし、健康で安全に暮らすための意識の向上を図る | ①健康診断・各種検査を実施し、その後の有所見者に対しての受診を徹底する<br>②保健に関する講演会を実施する<br>③毎朝の健康観察を実施する<br>④体育科職員や顧問と連携し、部活動での安全教育を行う<br>⑤保健だよりの発行や掲示物での啓発活動など、生徒保健委員会の活動の支援をする | ①有所見者の受診状況　歯科(う歯)100%　視力 80%<br>②薬物乱用防止教室後のアンケート　満足度　90% 以上<br>③出席率99．0%以上<br>⑤保健だよりの発行、掲示物更新ともに月1回以上 | ①再度指導中 | B | 概ね達成できたが、う歯の治療が50%に及ばなかった。 | B | | C |
| | | ［1年］ | 健康で安全に暮らすために、主体的に自己の健康管理をする意識を向上させる | ①健康診断・各種検査の実施後の受診を呼びかける<br>②事故や怪我がないように留意させる | ①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上<br>②振興センター災害給付申請件数50件以下 | 歯科17．6%<br>視力36．8%<br>(9月) | C | 歯科28．6%<br>視力69．1%<br>振興ｾﾝﾀｰ13件 | C | ▼通知表に同封して、保護者にも受診を促した。 | |
| | | ［2年］ | 健康で安全な学校生活を送るために主体的な自己管理能力の向上を推進する | ①受診・治療の呼びかけ行い報告書の提出を徹底する<br>②健康観察による生徒の健康状態の把握する | ①有所見者の受診率は歯科50%以上、視力70%以上<br>②出席率99% | ①歯科４．９%、視力２３．３%<br>②1学期出席率９９．１% | C | ①歯科１４．３%、視力５６% <br>②1学期出席率９８．９% | C | ▼生徒への呼びかけをさらに行っていきたい | |
| | | ［3年］ | 安全・健康に留意し生徒自ら主体的に健康管理ができるよう意識を向上させる | ①健康診断・各種検査の実施後の受信を呼びかける。<br>②事故や怪我がないように留意させる。 | ①有所見者の受診率80%以上<br>①出席率99%以上 | ①歯科11．4%、視力23．8%<br>②1学期出席率98．8% | C | ①1/16までの歯科20．8%、視力30．9%<br>②88% | C | | |
| | 食育 | 保健部 | 食に関する意識を向上させ、主体的に改善していこうとする姿勢を養う | 生徒保健委員会活動(ほけんだよりに掲載し、改善のための提案や呼びかけ)の支援をする | 食に対する意識や実情に関するアンケートで改善や意識の向上に関する数値の上昇 | 後期にアンケート調査 | B | アンケート未実施 | C | ○保健だよりに掲載、ポスター掲示により促した。 | C |
| | 生徒会 | 生徒部 | 挨拶運動や全校応援を通して、山形中央高校への帰属意識の涵養を図る | ①生徒会・学級委員会・自治員会によるあいさつ運動を実施する<br>②チーム中央の一体感を味わえるような壮行式や全校応援における充実した応援体制をとる | 学校評価（生徒版）で6割以上が評価 | 未実施 | B | 94．2% | B | | B |
| | 部活動 | 生徒部 | 部活動の指導を通して、競技力のみならず人間力の向上を図る | 部活動目標シートの作成と掲示を行う | 学校評価（生徒版）で6割以上が評価 | 未実施 | B | 83．5% | B | | B |
| | | 体育部 | 全国大会で勝負できる力を持った生徒を育成する | ①各部の活動をより一層充実させる<br>②施設の整備（人工芝のグランド整備等）を推進する<br>③優秀な生徒を確保するための手立てを検討する | ①県大会優勝数　15<br>①全国大会出場数　190<br>（団体10）(夏季130・冬季60)<br>①全国大会入賞数　60<br>（団体2）(夏季10・冬季45)<br>②③具体的なプランの進捗状況 | 10/11時点<br>県優勝５<br>全国出場５８名<br>夏季入賞５<br>冬季入賞 | B | 1/21時点<br>県優勝９<br>全国出場１４４名　夏季入賞７<br>冬季入賞 | B | ○県大会優勝数は減った。全国大会出場は例年なみであった。 | |
| 学校経営 | 同僚性 | 管理職 | 協働的な働き方を推進し、同僚性を高める | ①部長主任に働きかけ、分掌内で協働的な働き方を促進する<br>②退校時間が連日遅い職員に声掛けや面接を行い、業務の平準化が図れるよう部長主任と調整を行う | 職員アンケートによる自己評価 | 未実施 | | 業務の平準化<br>74．0%→63．5% | C | ▼昨年度より数値は減少、アンケートでは行事の精選必要の意見が増加。 | C |
| | 専門性 | 管理職 | 教師に求められる指導力の向上を図る | ①教員の力量を向上させるために研究授業や校内研修会を実施する<br>②校外研修会に積極的に派遣し、幅広い情報を職員間で共有する | 職員アンケートによる自己評価 | 未実施 | | 研修計画実施84．0%→76．9%<br>指導法の工夫・改善86．0%→98．1% | C | ▼探究型学習への研修が必要（外部研修も含む）。<br>○研究授業等を通して、指導方法を教科内で研修できた。 | C |
| | 健康管理 | 管理職 | 職員の健康状態に留意し、休暇を取りやすい職場環境を整備するとともに、職員が自ら健康維持増進に努めるよう喚起する | ①年休の奨励、代休・振休の履行を徹底する<br>②健康診断後の再検査・精密検査を早期に実施してもらう<br>③職員の業務負担に目を配り、業務量の平準化に努める | ①年休・代休・振休の取得環境についての職員アンケート昨年比<br>②再検・精検100%の実施<br>③一斉退校日の実施状況<br>④年休5日以上取得者率80%以上（4月～12月） | 未実施 | | ①88．0%→90．4%<br>②97．5%（H30：約90%）<br>③10回中3回達成（33．3%）<br>④75．9% | C | ○取得環境は改善。<br>▼再検等は年内中に。<br>▼来年度から一斉退校日を年間行事予定に標記。<br>▼取得環境を更に整える。（平均8．6日） | C |